

# JADE GROUP



LOCONDO.jp

## 23年度(24年2月期) 通期 決算説明会 補足資料

ジェイドグループ株式会社 (3558)

2024.4.15

## 2024年2月期通期 業績ハイライト

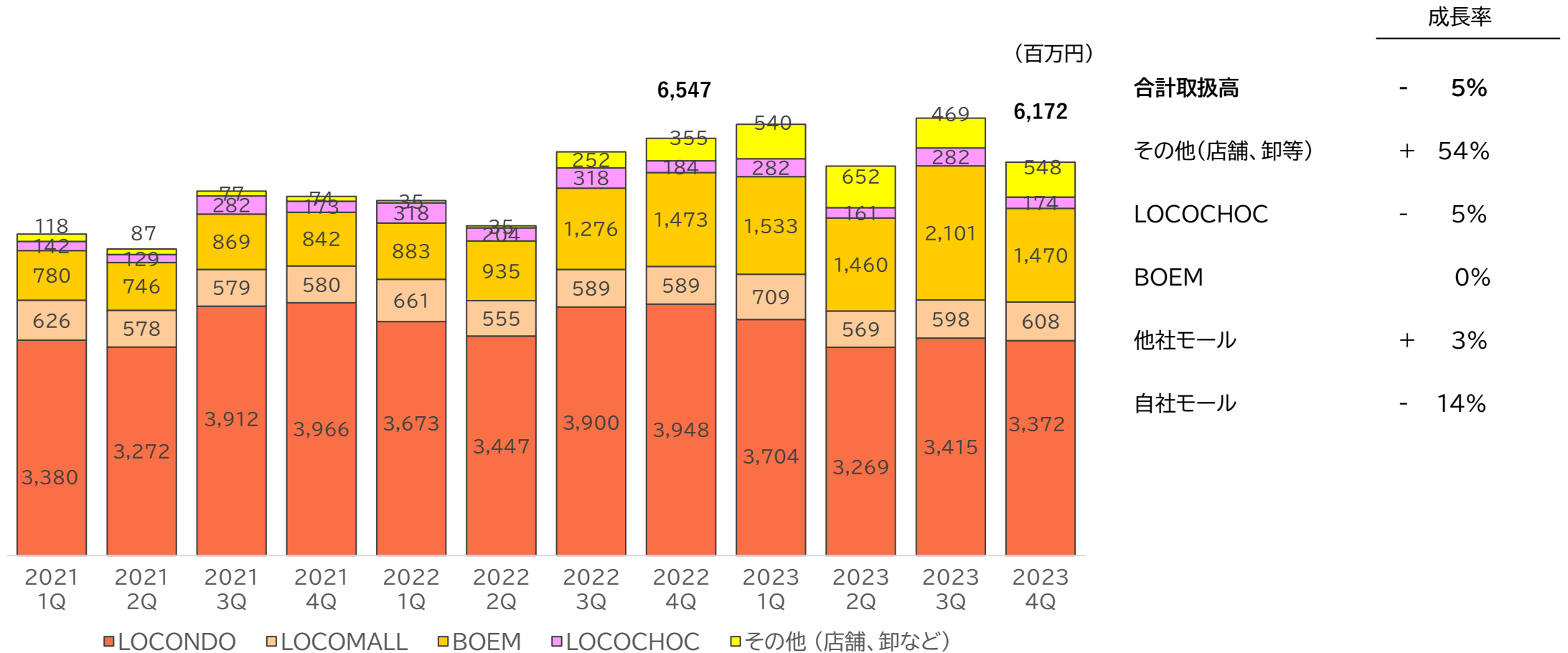
取扱高はリーボック事業の通期寄与により昨対+ 17.6%増加。リーボック事業開始、経費コントロールによって、営業利益は昨対+ 70.0%の16.8億円へ

(百万円)

	22年度	23年度	増減	計画値	計画対比
① 商品取扱高(相殺前)	24,398	28,697	+ 17.6%	30,000 - 32,500	88.3 - 95.7%
売上高	10,464	13,356	+ 27.6%	14,000	95.4%
売上総利益	8,353	10,000	+ 19.7%	-	-
(対取扱高比)	34.2%	34.8%	+ 0.6%	-	-
限界利益	4,038	5,264	+ 30.4%	-	-
②限界利益率	16.6%	18.3%	+ 1.8%	-	-
EBITDA	1,169	1,878	+ 60.6%	-	-
③ 固定費	3,047	3,579	+ 17.5%	-	-
営業利益	991	1,685	+ 70.0%	1,750	96.3%
経常利益	963	1,705	+ 76.9%	1,750	97.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,258	1,001	- 20.4%	1,400	71.6%

# 取扱高(親子相殺後) - 四半期推移

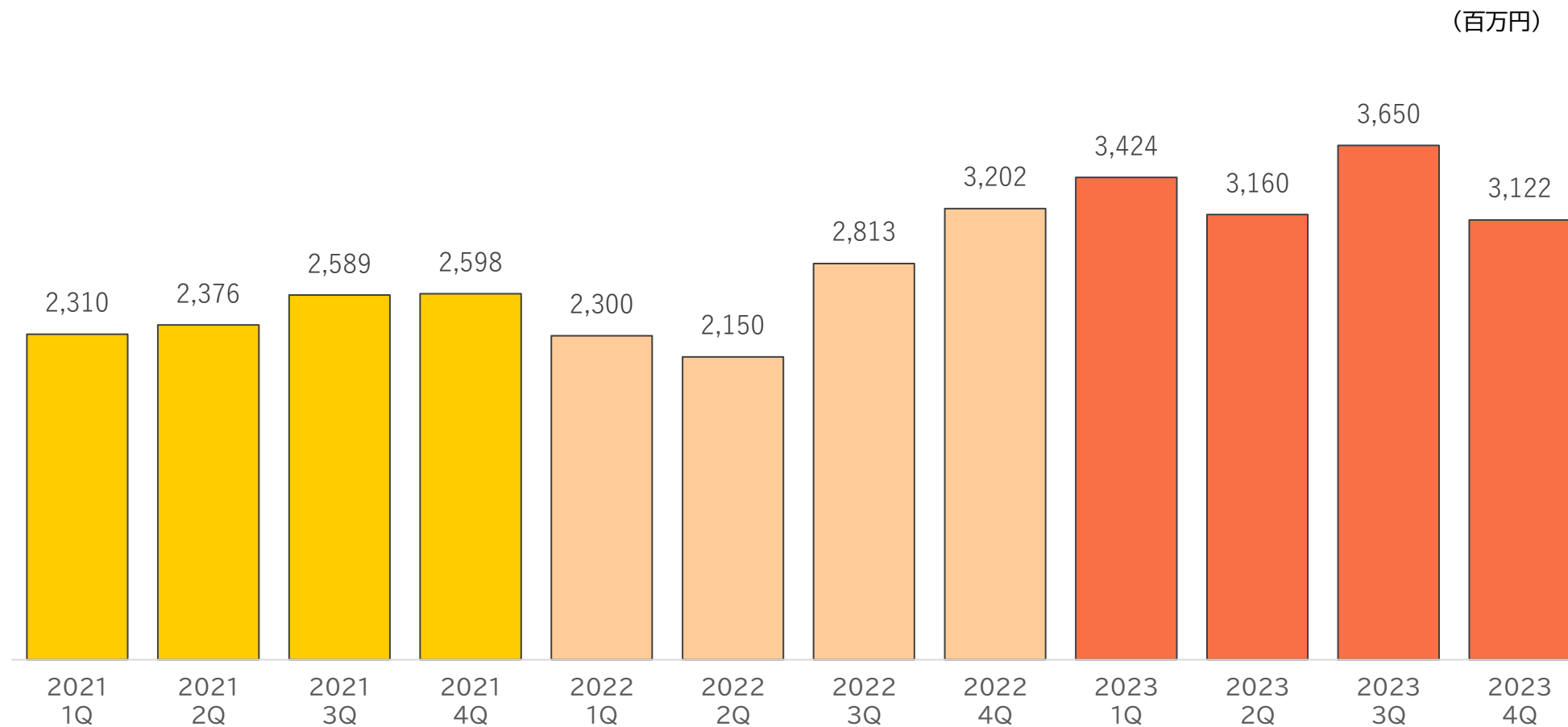
通期では増収したものの、第4四半期では、暖冬や某大手ブランドの退店影響もあって、取扱高はダウン



※ 2022 3Qより連結

## 売上高 - 四半期推移

取扱高同様に、売上高も ▲2%



※ 買取在庫の場合は販売価格、委託在庫の場合は販売価格×ロコンド手数料率を売上として計上

※ 2022 3Qより連結

## 販管費詳細

倉庫の家賃増（第1四半期）やRBKJ手数料支払いの増加があったものの、広告・物流効率化や手数料率引下げ等のコストコントロールによって販管費率は昨対で 0.9%増に留まる

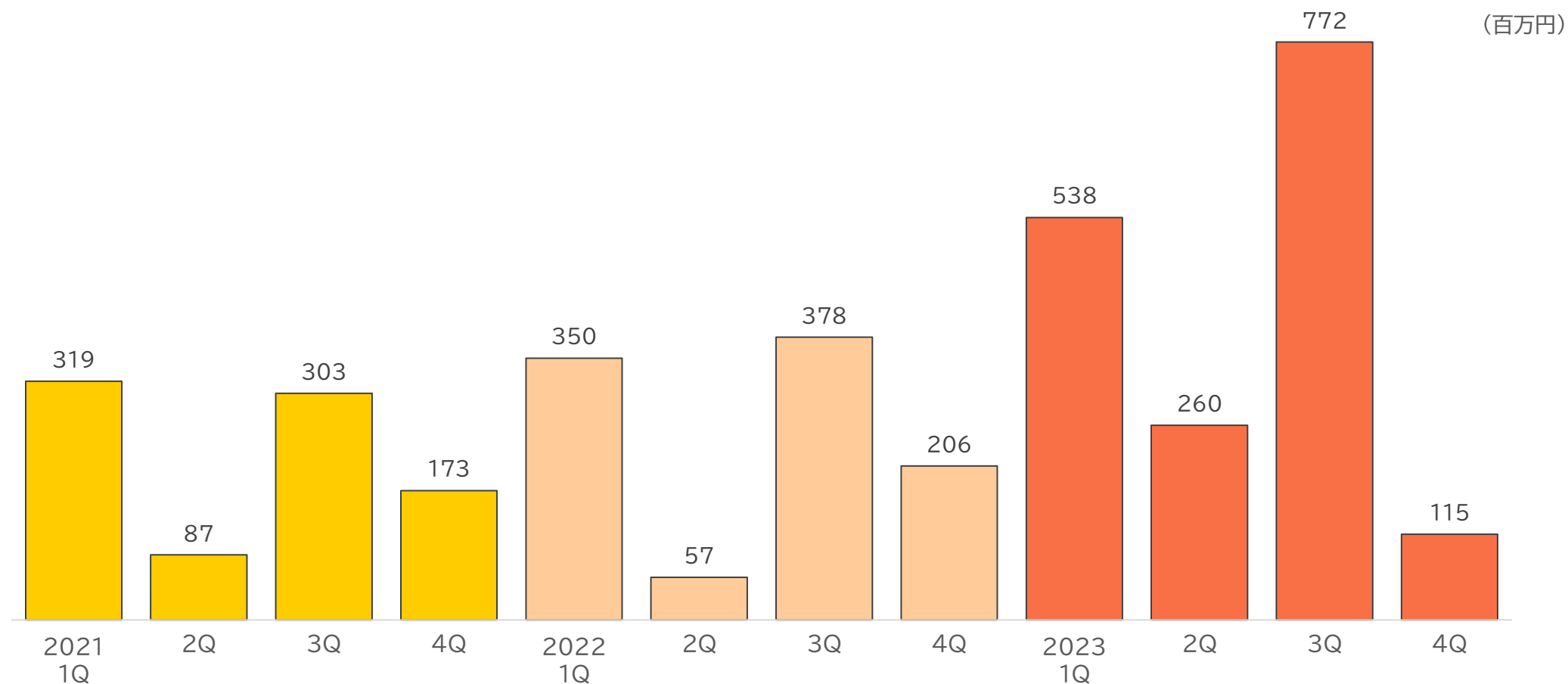
(百万円)

	22年度	%	23年度	%*1	前期比	主な増減要因
人件費	1,583	6.7%	1,767	6.8%	+ 0.1%	
うち、社員	833	3.5%	976	3.8%	+ 0.2%	
うち、パート、アルバイト	749	3.2%	790	3.1%	- 0.1%	物流効率化に伴う改善
荷造運搬費	1,780	7.5%	1,708	6.6%	- 0.9%	バスケット単価上昇、送料効率化
手数料(変動)	803	3.4%	1,355	5.2%	+ 1.8%	RBKJのロイヤリティ・他社EC
広告関連費用	854	3.6%	882	3.4%	- 0.2%	
うち、変動費(Web広告等)	798	3.4%	692	2.7%	- 0.7%	効果的な広告配分
うち、固定費(テレビCM等)	55	0.2%	190	0.7%	+ 0.5%	
地代家賃	1,416	6.0%	1,647	6.4%	+ 0.4%	倉庫家賃(第1Q)、RBKJ店舗
その他	924	3.9%	953	3.7%	- 0.2%	各種手数料削減
販管費 合計	7,362	31.2%	8,315	32.1%	+ 0.9%	

\*1: 相殺後GMV対比率

## 営業利益 - 四半期推移

暖冬によるGMV減少や販促費増の影響もあって、第4四半期の営業利益は1.1億円に留まる

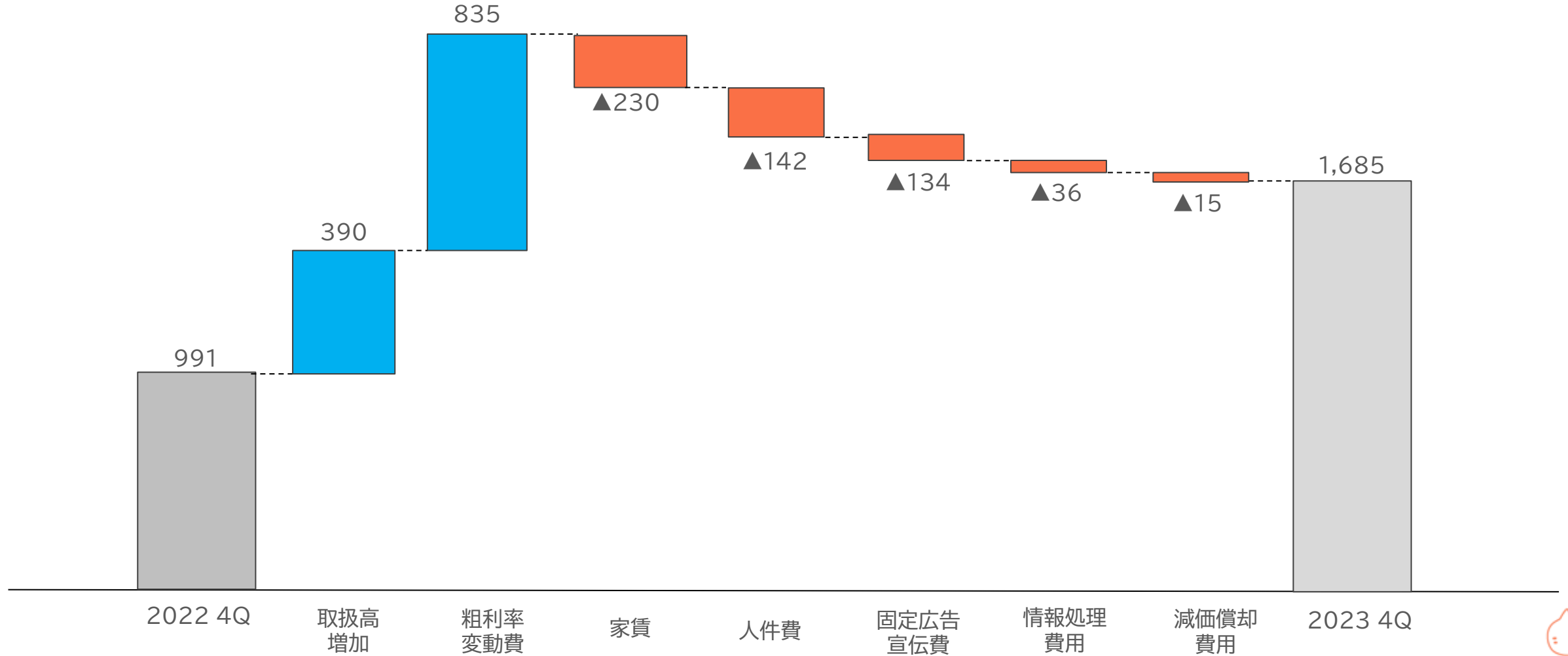


※ 2022 3Qより連結

# 営業利益 - 昨対分析

(百万円)

通期の営業利益は、取扱高増加、粗利率上昇、変動費コントロールによって + 70.0%の1,685百万円



## 貸借対照表(BS)

マガシーク買収に伴い、運転資金を金融機関より借入も、依然自己資本比率54.4%と高い健全性を維持

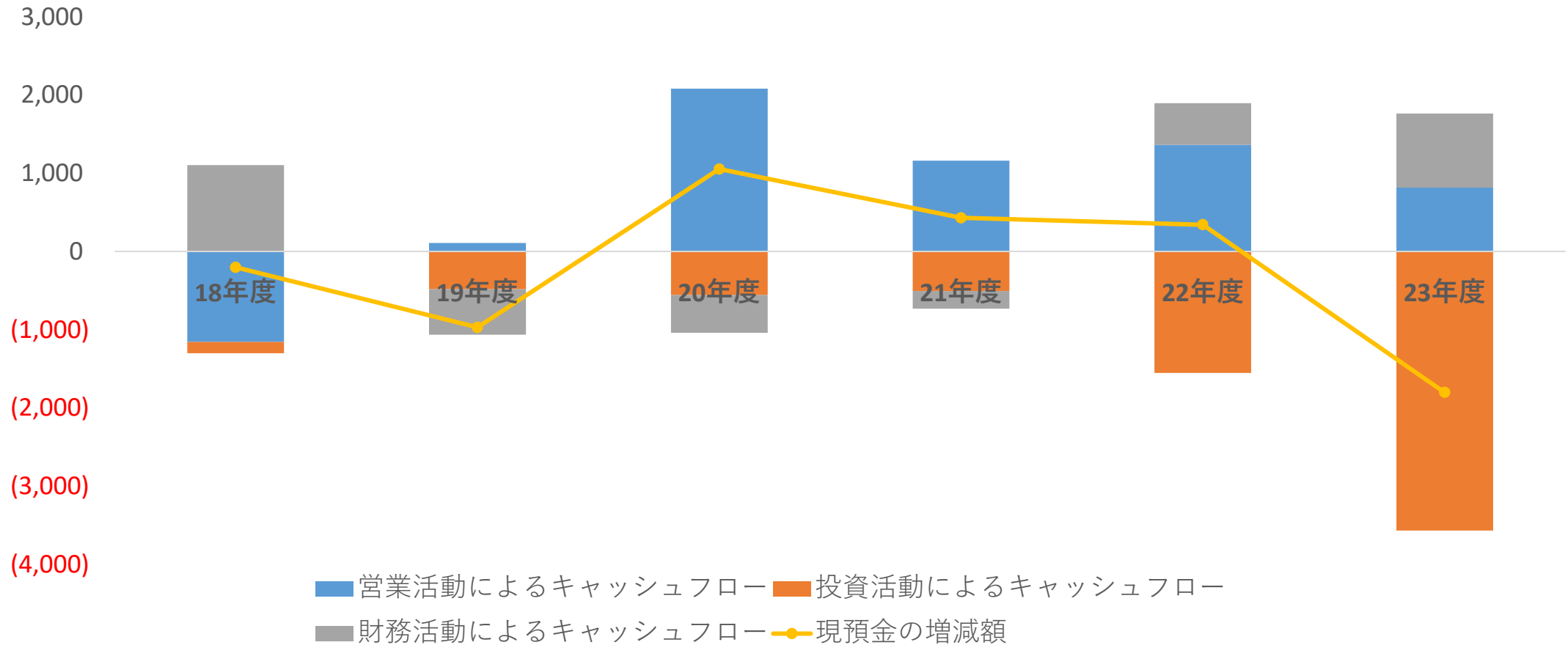
(百万円)

<b>流動資産</b>	<b>9,651</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,719</b>
うち、現預金	1,834	うち、受託販売預り金	904
うち、商品	2,977	うち、借入金	1,600
<b>固定資産</b>	<b>2,117</b>	<b>固定負債</b>	<b>641</b>
うち、有形固定資産	447	うち、借入金	646
うち、無形固定資産	288	<b>負債合計</b>	<b>5,361</b>
うち、投資その他	1,380	<b>純資産合計</b>	<b>6,407</b>
<b>資産合計</b>	<b>11,768</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>11,768</b>



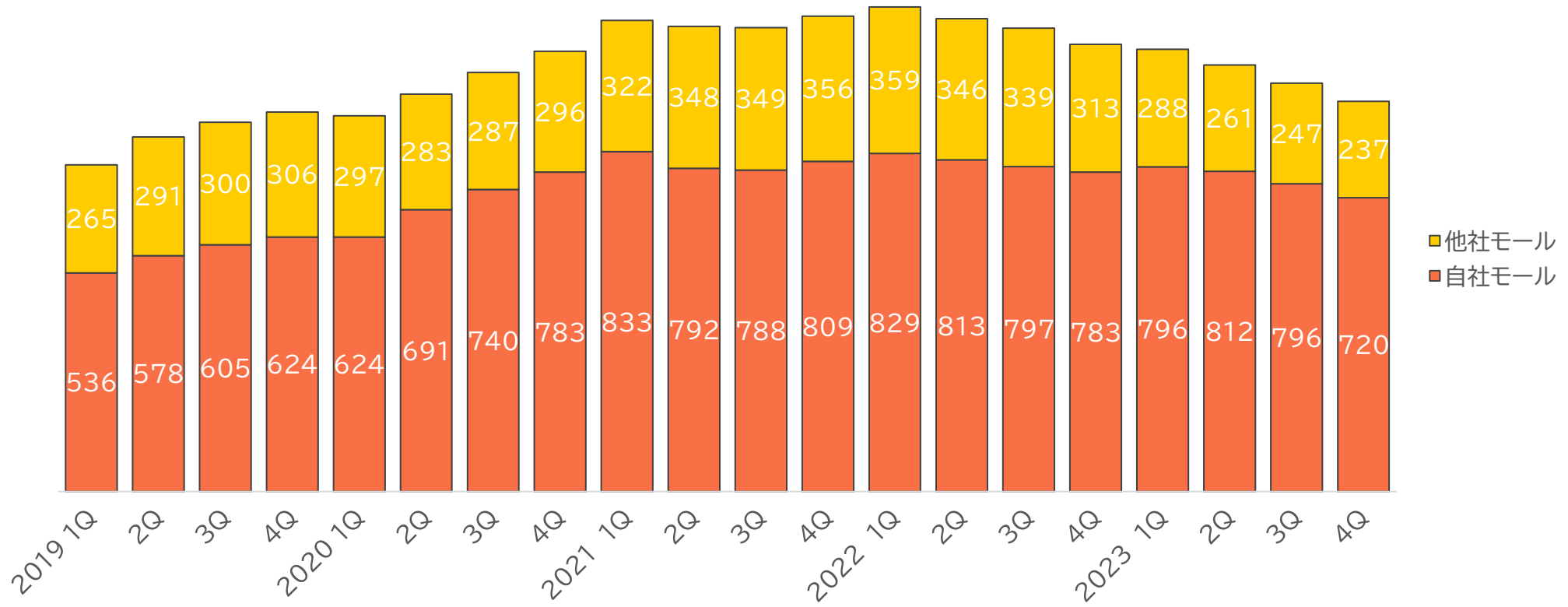
# キャッシュフロー計算書(CF)

営業活動によるキャッシュフローと現預金で成長投資(マガシーク、FASCINATE、BRANDELIを買収、TCBに出資)。  
 運転資金を金融機関から借入。また、自社株買いを通じた株主還元を実施 (百万円)



## ECモール事業 - アクティブユーザー数

暖冬や、大手出店ブランドのLOCONDO退店による影響もあり減少も、一定のレンジ内で推移

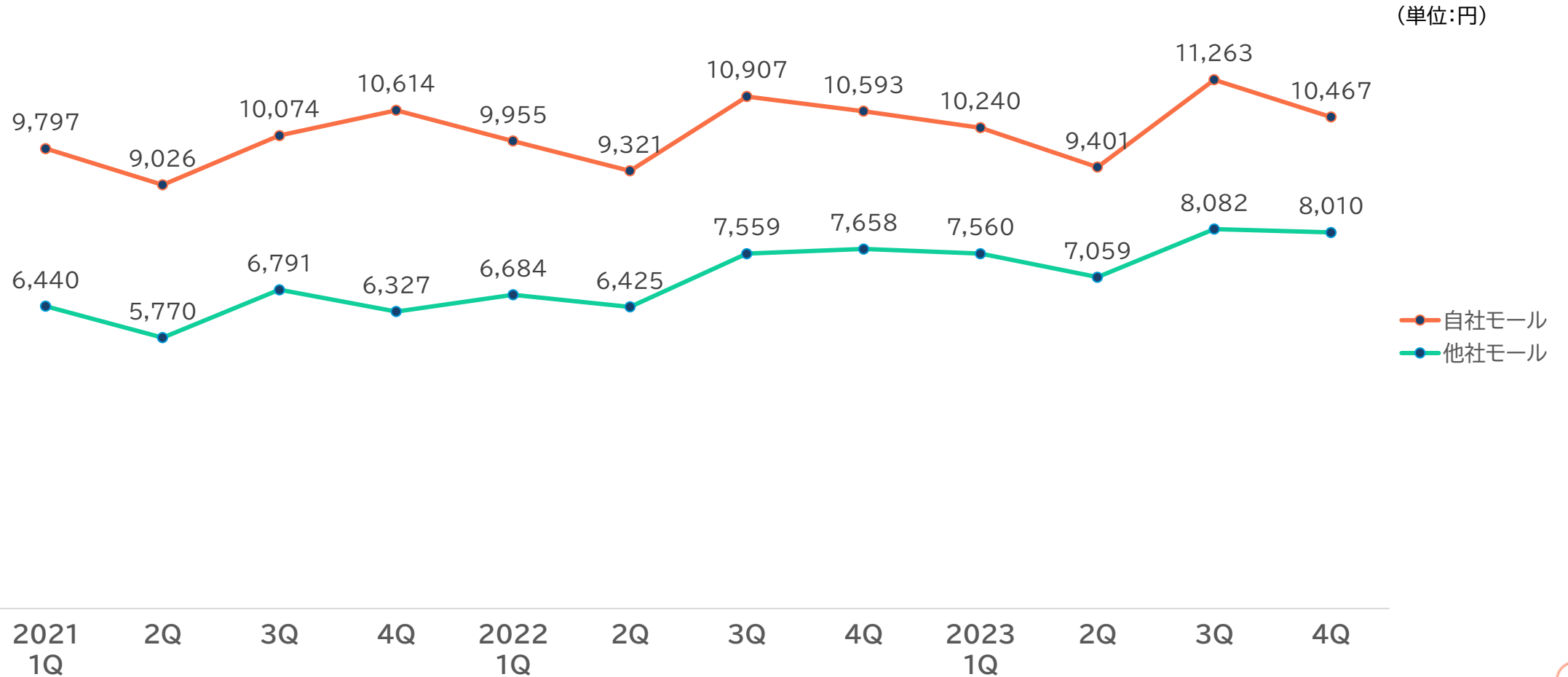


※ アクティブユーザー:1年に1回以上購入したユーザー

※ Fashion walkerのアクティブユーザーについては、株式取得後に購入したユーザーのみを自社モールにカウント

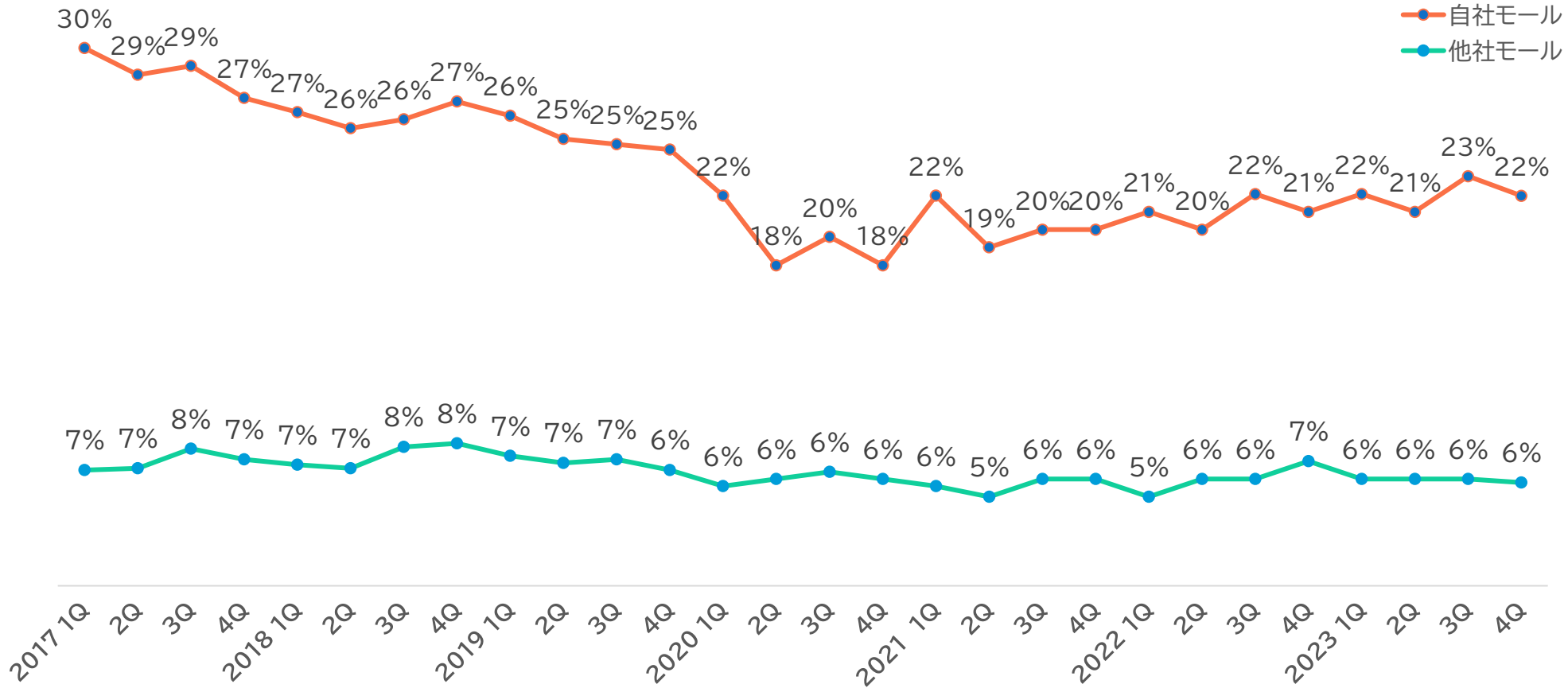
## ECモール事業 - 平均バスケット単価(出荷ベース)

昨年対比で自社モールは ▲ 1%、他社モールは+ 4%。総じてフラット



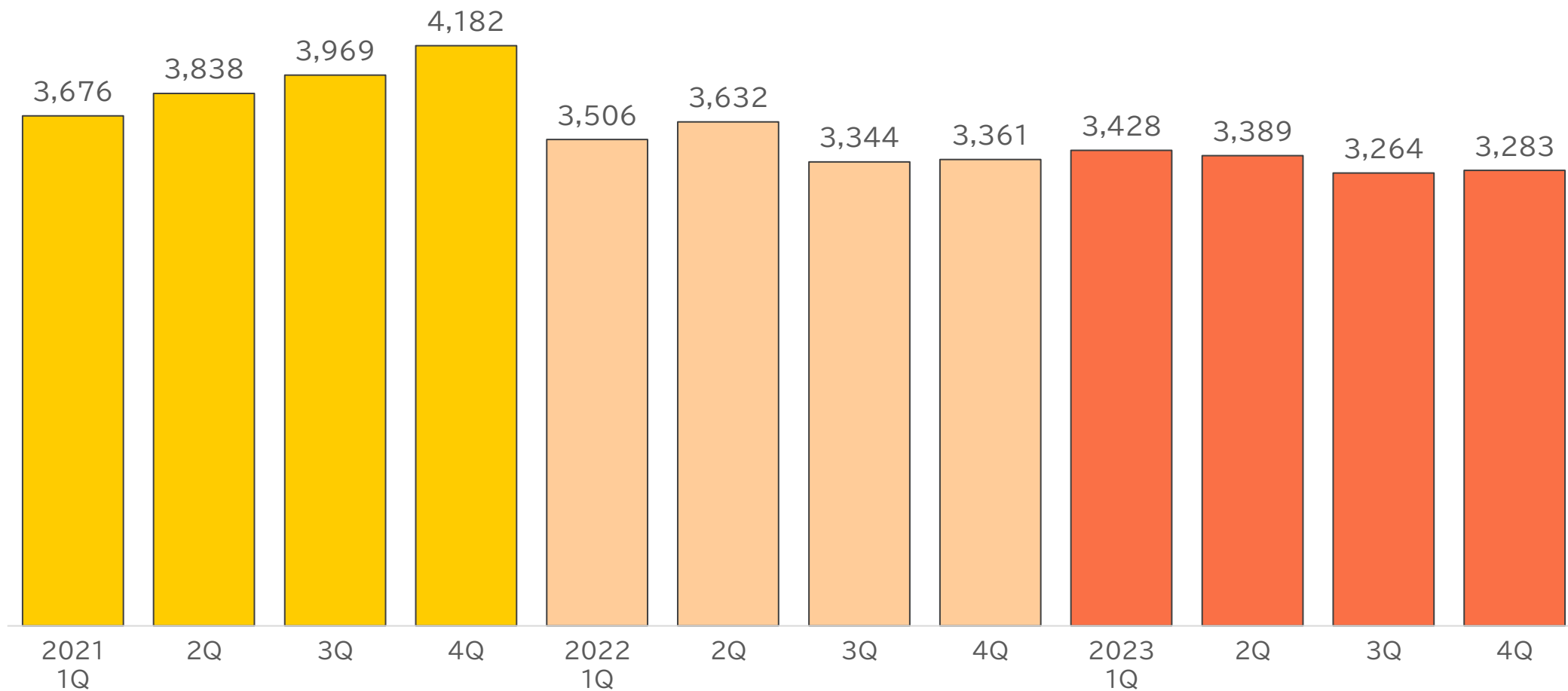
# ECモール事業 - 返品率

自社モールの返品率は、概ね20%前後で推移。



## ECモール事業 - 取扱ブランド数

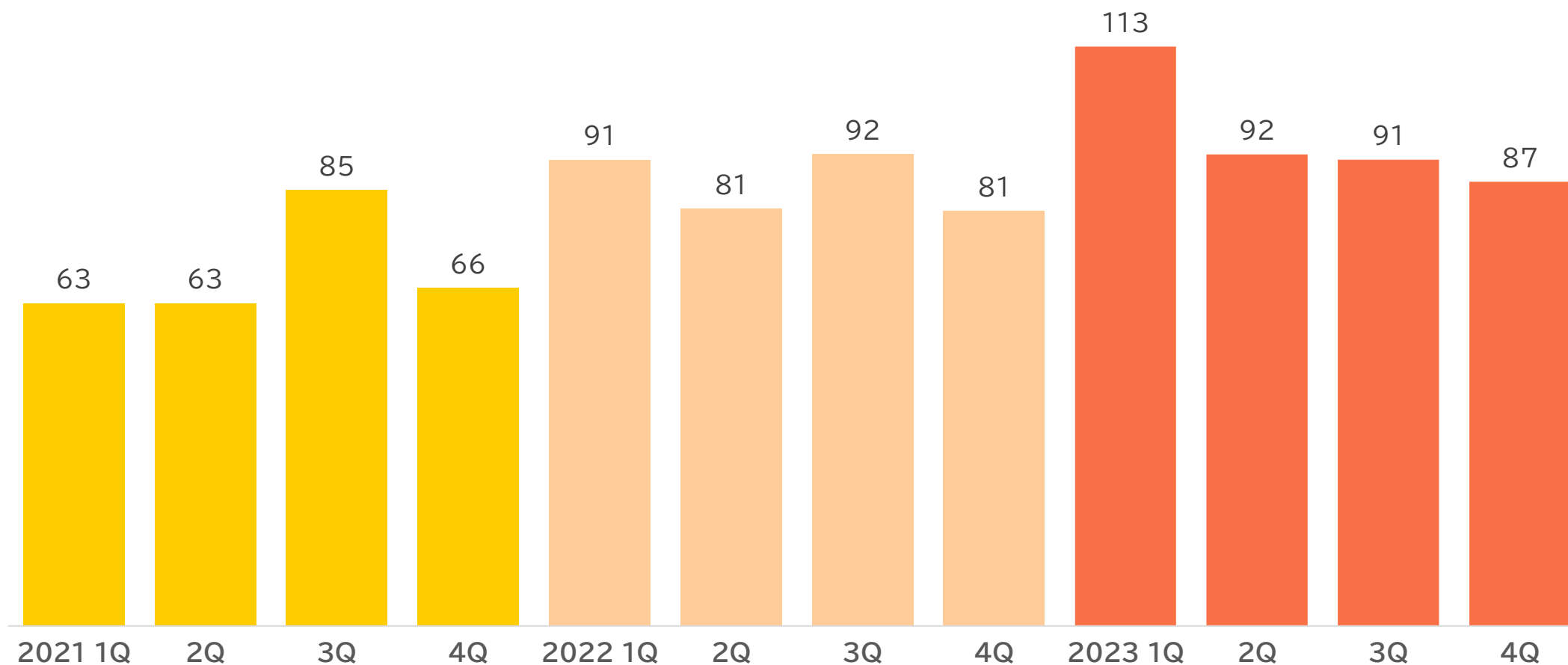
ブランド数 (waja除く) は3,283個でほぼ変わらず



## プラットフォーム事業 - e-3PL(物流受託)出荷個数

e-3PL出荷数は+7%と安定推移。引き続き、靴業界における物流倉庫のハブを目指していく

(単位:万個)



- 本資料は、ジェイドグループ株式会社の事業及び業界動向に加えて、ジェイドグループ株式会社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性が内在します。
- すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- ジェイドグループ株式会社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。